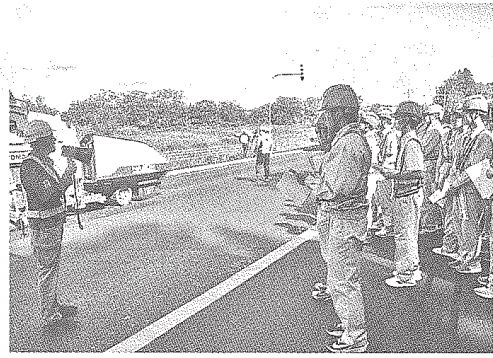




建設業への理解深めて

帯広建協 高校生招き現場見学会

【帯広発】帯広建設業協会（萩原一利会長）は9月29日、帯広工業高校と帯広農業高校の生徒を対象とした建設現場見学会を開催し

た。写真。帯広工業高環境土木科1年生と帯広農業高農業土木工学科2年生合わせて約80人が参加。国と道の2現場を見学し、建設

業に関する理解を深めた。

生徒たちに建設業を理解してもらうために同会が毎年実施しているもの。

今回、幕別町内で工事が進む帯広開建発注の「新川二期地区第1集水路下流工区工事」（株平田建設施工）と帯広建管発注の「幕別帯広芽室線交通安全（通学路）工事（明許）外（遊佐・トーションJV施工）の2現場を、2校が交互に訪問した。

うち「幕別帯広芽室線交通安全（通学路）工事（明許）外」では十勝建設産業の未来を考える会が説明を

担当。事業について帯広建管事業課の村上和博専門主任、建設コンサルタントについて（株）ズコーシャの山本和敏執行役員技術部長、工事について同工事現場代理人で（株）遊佐組の大寄辰也土木部技術部長がそれぞれ説明した。

村上専門主任は事業の目的や概要を説明したほか、事業の効果について「交通課題の解消」「緊急時における医療施設へのアクセス強化」「医療・商業施設等へのアクセス向上」の3点を紹介。取り組んだ仕事が生に残り、新聞に取り上げ

られるなど建設業の意義ややりがい、魅力を伝えた。

山本部長は、調査や計画、設計など建設コンサルタントの仕事の説明した上で道路設計の概要を紹介した。大寄部長は、工事の概要を説明し、これまでの工事の進捗を映像で生徒たちに見せた。

このあと、舗装の現場を案内。形に残る建設業の魅力を伝えた。

質疑応答では、労働時間や事業費、ドローンの使用方法に関する質問が上がった。